平成29年度「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」における本校の結果と分析

江戸川区立一之江第二小学校　５年生

１　調査について

- 調査日　　平成２９年７月６日（木）
- 対象学年　第５学年
- 実施人数　１３０名
- 教科　　国語・社会・算数・理科

２　各教科の調査結果

	Ａ　教科の内容			Ｂ　読み解く力に関する内容		
教科	学年	江戸川	東京都	学年	江戸川	東京都
国語	68.8	63.9	67.5	67.7	62.4	71.7
社会	80.2	73.5	76.1	68.4	58.4	61.9
算数	66.7	61.3	63.7	55.6	45.4	47.9
理科	71.3	65.9	69.4	82.8	75	78.9

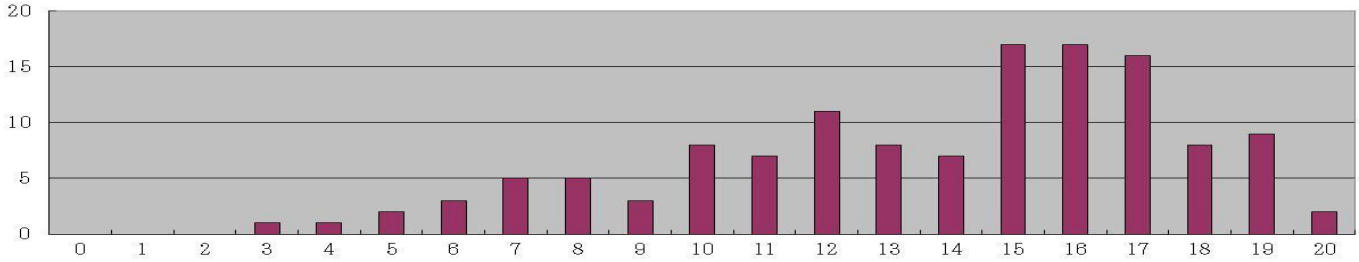
AとBの合計		
学年	江戸川	東京都
71.5	63.7	68.1
77.6	68.9	71.8
66.7	58.3	60.7
76.4	68.6	72.2

＊　単位は正答率（%）

＊　東京都の結果は抽出校、区の結果は区内全校による平均

３　各教科の分析（○成果／●課題）

【国語】

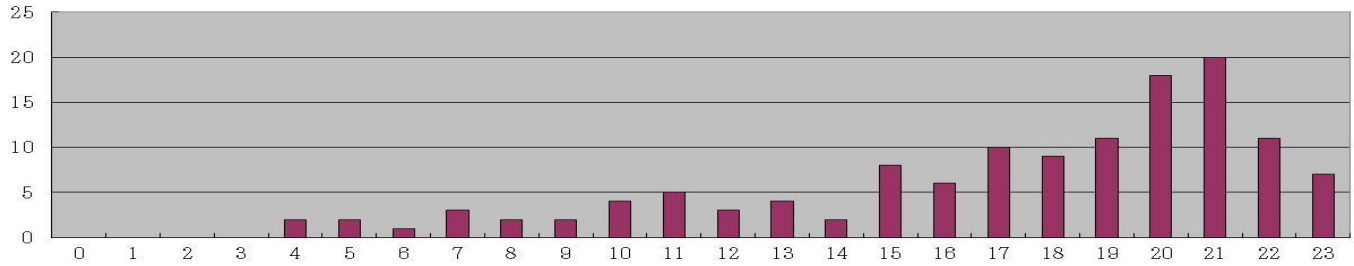


○　『読む能力』の正答率が東京都に比べ２．５％高い。（本校６８．２％　東京都６５．７％）叙述をもとに登場人物の気持ちや、そのような気持ちになった理由などを、正確に読み取る力が身に付いていると考えられる。

●　『Ｂ　読み解く力に関する内容』の正答率が東京都に比べ４．５％低い。（本校６７．２％　東京都７１．７％）その中の２項目（『取り出す力』『読み取る力』）の正答率が東京都に比べ低い。文章から必要な情報を取り出したり、複数の資料の内容を比較・関連付けて読み取ったりする力に課題があると考えられる。

●　『Ａ　教科の内容』の『書く（漢字）』の正答率が東京都に比べ３．１％低い。（本校６９．６％　東京都７２．７％）既習の漢字を文脈に即して正しく読むことはできるが、書くことができない児童が多いと考えられる。これまでの学年で習ってきた漢字について、復習する必要がある。

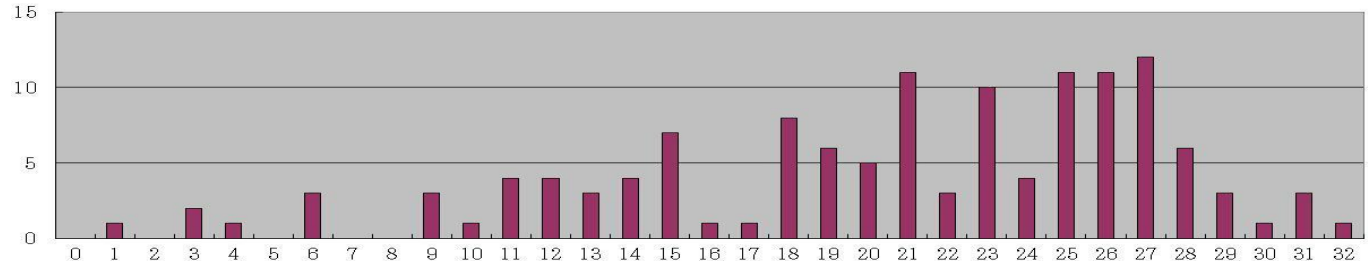
【社会】



○　『Ａ　教科の内容』の正答率が、全ての項目において、東京都に比べ高い。社会の基礎学力が定着していると言える。

●　『Ｂ　読み解く力に関する内容』の正答率が東京都に比べ０．１％低い。（本校６１．９％　東京都６１．８％）その中の２項目（『取り出す力』『解決する力』）の正答率が東京都に比べ低い。資料をもとに、必要な情報を取り出したり、意図や背景、理由などを理解・解釈・推論して解決したりする力に課題があると考えられる。学習した内容を自分の言葉でまとめたり、その内容についての考えを文章で表現したりする活動を、授業の中に意図的に取り入れていく必要がる。

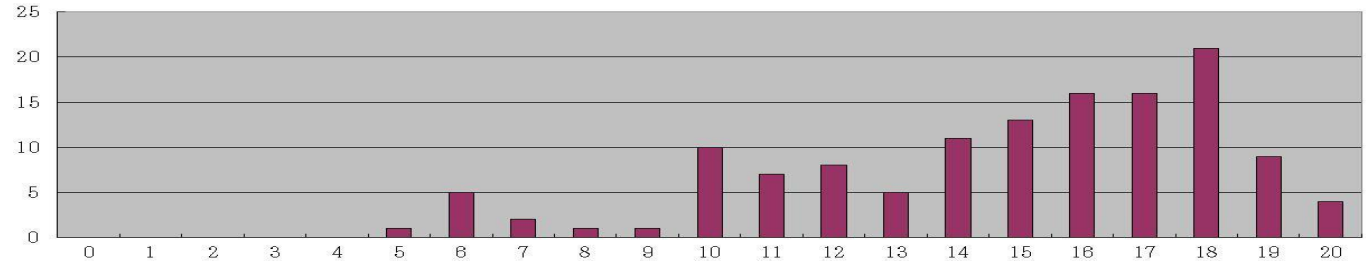
【算数】



○　『Ａ　教科の内容』『Ｂ　読み解く力に関する内容』両方の正答率が、全ての項目において、東京都に比べ高い。多くの児童に、算数の基礎学力・応用的な力が身に付いていると言える。

●　正答率が４０％に満たない児童が１３人と、他教科に比べて多い。基礎学力が定着していない児童に対して、個別指導をより充実させていく必要がある。

【理科】



○　『Ａ　教科の内容』の『自然事象についての知識・理解』の正答率が東京都に比べて６．４％高い。

●　『Ａ　教科の内容』の『観察・実験の技能』の正答率が東京都に比べて２．４％低い。観察・実験器具の技能を確実に習得するために、繰り返し操作をさせる指導の充実を図る必要がる。

●　『Ｂ　読み解く力に関する内容』の２項目（『取り出す力』『読み取る力』）の正答率が東京都に比べ低い。観察の結果から分かることや、結果と予想を比較・関連付けて考えることに課題があると考えられる。問題解決的な学習を充実させ、観察・実験の結果を、問題や予想に照らし合わせて考察する指導を充実させる必要がある。